

平成29年度 会派調査研究報告書

(視察先1箇所につき1枚)

会 派 名	日本共産党	
事 業 名	先進地視察 「小学校給食の無償化について」	
事 業 区 分	①研究研修	②調 査

1 上田市での課題と研修・調査の目的

子どもの貧困対策及び食育の推進のために学校給食の果たす役割は大きくなっています。学校給食の無料化は、小さな自治体では事例があるものの、人口10万人を超える自治体は珍しく、先進事例である長浜市を視察し上田市での参考とする。

2 実施概要

実施日時	視察先	滋賀県 長浜市
平成29年8月21日 9:00~10:30	担当部局	教育委員会 すこやか教育推進課

報
告
内
容

1 市の概要及び特徴

○人口 118,193人

○面積 681.02km²

○古くは「今浜」。豊臣秀吉によって城下町が開かれたとき、織田信長の一字をとって「長浜」に。滋賀県の東北部に位置し、北は福井県、東は岐阜県に接する。周囲は伊吹山系などの山々と琵琶湖に面し、中央には豊かな湖北盆地と水鳥が集う湖岸風景が広がる。特産品は、浜りちめん、ピロード、鮎ずしなど。観光名所は、長浜城、大通寺、黒壁スクエアなど。

2 視察事項について

(1) 研修内容（質問項目）

- ① 小学校給食費の無料化の施策の背景
- ② 小学校給食費の無料化提案の至るまでの経緯、関係する法令等
- ③ 施策に対する市民要望や政策決定までの市民参加の実施の有無及びその内容
- ④ 参考とした、他の地方公共団体の類似する政策との比較検討結果
- ⑤ 市の総合計画における根拠又は位置付け
- ⑥ 小学校給食費無料化を実施する上での財源措置
- ⑦ 継続性の確保について、将来にわたる効果及び経費

以上の項目を事前にお伝えしてありました。

当日は、担当者から説明を受けて、質疑応答させていただきました。

(2) 説明を受けた主な内容

① 長浜市は、学校給食費を全面的に支援することで、子育て世代が抱えている経済的負担の軽減につながり、安心して産み、育てることができる環境整備に寄与できるものと考えてこの事業を進めたとのことでした。

② 制度は、長浜市から直接、学校給食会に学校給食費の実費分(補助金)を交付するため、学校給食費を小学校に支払う必要はなし。

小学校に在籍する保護者は、申請を必須となっている。

③ 対象は、小学校に在籍する児童の保護者で、長浜市内に住所がある方。

区域外に小学校に通っている場合でも、長浜市に住所があれば補助対象となる。県立養護学校も対象となっている。

対象外は、就学援助費を受給している場合など。

④ 予算は、平成29年度は2億6645万円である。

<参考資料>

- ・市立小学校 27校 児童数 6,639人
- ・市立中学校 13校 生徒数 3,511人
- ・学校給食センター センター方式5カ所、自校方式2小学校、1中学校



(長浜市役所前)

3 まとめ(上田市に参考になる点、活かせる点)

- 市の理念として「市民で支える小学校給食費補助」としているように、市民が子育て世代の経済的負担を軽減していこうというメッセージが出されおり、「少子化対策推進本部」による少子化対策の具体策の一つであること。
- 人口10万人を超える自治体で、学校給食の一部無料化を始めたのは長浜市が初めてであり、そのねらいや成果を踏まえて、上田市の参考としたい。

* 視察先の写真等がある場合は添付のこと

平成29年度 会派調査研究報告書

(視察先1箇所につき1枚)

会 派 名	日本共産党	
事 業 名	先進地視察	
事 業 区 分	①研究研修	②調 査

1 上田市での課題と研修・調査の目的

「議会改革」については、不断の努力が必要ということであり、市議会改革の参考とするため。

2 実施概要

実施日時	視察先	滋賀県 長浜市
平成29年8月21日 10:30~11:00	担当部局	議会事務局

報
告
内
容

1 市の概要及び特徴

○人口 118,193人

○面積 681.02km²

○古くは「今浜」。豊臣秀吉によって城下町が開かれたとき、織田信長の一字をとって「長浜」に。滋賀県の東北部に位置し、北は福井県、東は岐阜県に接する。周囲は伊吹山系などの山々と琵琶湖に面し、中央には豊かな湖北盆地と水鳥が集う湖岸風景が広がる。特産品は、浜りちめん、ピロード、鮒ずしなど。観光名所は、長浜城、大通寺、黒壁スクエアなど。

2 視察事項について

(1) 研修内容（質問項目）

① 議会基本条例について

ア 制定経過はどうか。

イ 条例の概要はどうか。

ウ 市の特徴（独自）となるものは反映しているか。

エ 「長浜市市民自治基本条例」との関係はどうか。

② 議会活性化検討委員会について

ア 設置の経過はどうか。

イ 検討の経過はどうか。

ウ 検討結果から取り組みを始めている事項の状況はどうか。



(長浜市役所前)

- ③ 平成27年9月に設置された広報広聴委員会について
 - ア 主な業務は何か。
 - イ 議会だよりの編集方法や発行状況はどうか。
 - ウ 音訳版ながはま市議会だよりの発行までの経過はどうか。
 - エ 音訳版ながはま市議会だよりの市民の反応はどうか。
- ④ 長浜子ども議会について
 - ア 開催の背景はどうか。
 - イ 開催までの経過はどうか。
 - ウ 参加した子供たちの反応はどうか。
 - エ 保護者や傍聴者の反応はどうか。
- ⑤ 今後の議会改革について
 - ア 今後さらに議会改革を進めるうえでの課題は何か

(2) 説明を受けた主な内容

- ① 議会基本条例については、平成22年から23年にかけて「議会基本条例検討特別委員会」において、27回の会議を開き検討した。議会に関するアンケートなどもとり、平成25年9月議会において議会基本条例を制定した。
 - ・議会基本条例の特徴
 - 長浜市議会の独自のものとして次のようなものがある。
 - ア 一問一答方式の明記
 - イ 文書質問を認める
 - ウ 兼業の禁止の明記
 - エ 見直し規定を入れた
- ② 議会活性化委員会は、平成26年10月設置した。
 - ・議会改革に対する提言を平成26年12月に答申
 - ・次のような取り組みを展開している
 - ア 広報広聴委員会の設置
 - イ ICT化推進検討チームの設置
 - ウ 予算常任委員会の設置
 - エ 議会業務継続計画の策定
 - オ 議会基本条例の検証
- ③ 広報広聴委員会の主な業務として、議会だよりの発行、市民との意見交換会（議会報告会）、子ども議会の開催支援など
- ④ こども議会については、長浜市東ロータリークラブから開催の依頼があり、議会活性化の取り組みとして実施した。
(平成29年2月実施)

3 まとめ（上田市で参考になる点、活かせる点）

上田市役所の改修・改築事業の展開とともに市議会でも議会スペースの検討を進めている経過がありますので、議会活性化検討委員会の活動は、今後の上田市議会のなかでは参考になる取り組みだと思えます。

感想（まとめ）・市政に活かせること

* 視察先の写真等がある場合は添付のこと

平成29年度 会派調査研究報告書

(視察先1箇所につき1枚)

会 派 名	日本共産党	
事 業 名	先進地視察 「さまざまな公共交通施策について」	
事 業 区 分	①研究研修	②調 査

1 上田市での課題と研修・調査の目的

安心・安全な快適環境のまちづくりのために、公共交通は重要な役割を果たしています。

上田市でも、少子高齢化や環境保全に対応した暮らしやすい地域づくりに向けて、公共交通の利便性向上を図るための再編や利用促進が課題となっています。京丹後市では、全国に先駆けて平成18年より「上限200円バス」の実証運行を開始し、大きな実績をあげています。その後もさまざまな公共交通施策を実施していますので、先進的な取り組みを視察する。

2 実施概要

実施日時	視察先	京都府 京丹後市
平成29年8月22日 9:00~11:00	担当部局	企画総務部 企画政策課 (運行事業者) NPO 法人 気張る!ふるさと丹後町
報 告 内 容	<p>1 市の概要及び特徴</p> <p>○2004年に6町合併で誕生。府の北端に位置し、兵庫県に接する。日本海沿岸部及び山地部は、山陰海岸国立公園と丹後天橋立大江山国定公園に指定されている。農業の他、繊維・機械金属工業などの製造業、カニ料理や温泉といった観光業が盛ん。「古代丹後王国」の歴史遺産や伝説をもつ。</p> <p>○総人口【国政調査】 55,054人 面積 501.43km²</p>	
	<p>2 視察事項について</p> <p>(1) 研修内容(質問項目)</p> <p>多様な施策【200円バス、200円レール、EV乗り合いタクシー、デマンド交通、ささえ合い交通】について、それぞれ以下について事前に送付しました。</p> <p>ア 施策の内容</p> <p>イ 導入に至る背景、経過、問題点</p> <p>ウ 施策実施後の経過及び現状 (利用状況、財政状況)</p> <p>エ 住民参加の状況</p> <p>オ 事業者との係わり、連携の状況</p> <p>カ コンサルタントの活用状況</p> <p>キ 国土交通省との連携</p>	



ク 今後の課題

ケ 路線バスと乗り合いタクシー、デマンド交通との役割分担をどのようにされているか。廃止路線はなかったか。

コ 庁内担当部署及び職員体制はどうか。

(2) 説明された主な点

① 上限200円バスの取組み

- ・平成17年 大規模な市民アンケートを実施し、18年10月から4路線で実証運行開始
 - ・平成19年10月 市内全域に拡大(区間運賃最大1,150円⇒200円)
 - ・平成20年以降 新たな地域へのバス運行の乗入を開始し、22年本運行へ移行
 - ・平成25年10月 丹後2市2町に上限200円バスが拡大。
 - ・平成26年 4月 消費税増の運賃への転換はせず、運賃200円死守
- * 運行6年目には、利用者数2.3倍、運賃収入も30%増を達成。市の補助金額も約3,800万円の抑制となった。

② 200円レール・・・抜本的な利用促進策「高齢者200円レール」

- 高齢者利用3倍増を設定し、最高1530円を上限200円に
- ・平成23年 6月 200円レールの実証運行開始【土日祝54日間】 利用者2.8倍
 - ・平成24年10月 200円レールを平日にも拡大【171日間】 利用者3.1倍
 - ・平成25年 4月 丹後2市2町に200円レールが通年で適用拡大
利用者3倍超で推移
 - ・平成27年 4月 民間会社による鉄道事業が開始。200円レールも継続
利用者3倍超で推移
- * 単なる赤字補てんではなく、より多くの市民が負担少なくサービスを受けながら、行政の投入額を大きく損なうことなく、地域鉄道の増収につながっている。

③ EV乗り合いタクシー・・・民間タクシー撤退後の移動手手段の確保

民間事業者によるEV車両を活用した乗り合いタクシーの運行を支援

【2事業者、3台】

小荷物輸送や買い物代行など、新たなサービスも可能となった。

【国からの通達あり】

- ・平成27年10月1日から運行
- ・運行実績 2,208人、一日当たり 12人、サービス利用なし、小荷物輸送 6件
(平成27年10月1日～28年3月31日)



④ ささえ合い交通・・・道路運送法第78条第2号に基づく「公共交通空白地有償運送」
地元のボランティアドライバー（18名）の自家用車を活用し、移動したい人とドライバーをIGT(Uber ウェーバー)のスマートフォンアプリを介してマッチング
（平成28年5月～）

- ・運行主体：NPO法人「気張る！ふるさと丹後町」
- ・運行区域：乗車は丹後町のみ。降車は京丹後市全体
- ・運行日は毎日。運行時間は8時～20時。
- ・運賃は1.5kmまで480円、以遠は120円/km加算。
- ・主な利用者：地域住民、来訪者【国内、国外】

○特徴は・・・

- ・システム力により、住民と自家用車が無理なく活躍できる。
- ・携帯電話を介して、ユーザーとドライバーがマッチングされる。

【配車所要時間は1分】

- ・クレジットカードによる自動決済
- ・運行状況・内容の透明性が高い。

○実施後の改善点は・・・

- ・代理サポーター制度の導入

【スマートフォンやクレジットカードがなくても利用できるように】

- ・車内での現金支払いが選択できるシステム化

○今後の改善点は・・・

- ・丹後町外への往復運行の実現
- ・運賃の高額感の緩和（現在、タクシー料金の半額程度）
- ・代理サポーターの地区ごとの拡充
- ・高齢者への格安スマートフォン提供の方策

3 まとめ（上田市で参考になる点、活かせる点）

○ 京丹後市は、平成18年から全国で初めて「上限200円バス」を運行した市として知られており、上田市でも視察をして、平成25年10月からの「運賃低減バス」の実証運行に結びつきました。今回視察させていただき、「上限200円バス」は順調に推移していますが、そのためには住民の意識的な関わり、事業者との緊密な連携が欠かせないことを再認識しました。

京丹後市では「市民みんなで、公共交通を利用し、応援する」好循環の輪が広がっています。例えば、①高校生がバス待合所を作成 ②高齢者がベンチを作成 ③旅館の女将さんが列車でおもてなし ④沿線住民が駅ホームに植栽 ⑤高校生と園児が駅ホームに植栽などです。また、市民要望をよく把握し、要望の多いショッピングセンターや病院など市民要望が多い施設にバス停を設置し、バス停は導入前に比べて49か所増加しています。

上田市で取り組まれている「運賃低減バス」を成功させるためには、こういった市民意識の高揚をいかにつくりだすかが大切だと感じました。

京丹後市ではこの路線バスの他に、市営バスとして民間バス会社と競合しない地域で、デマンドなど運行されていますが、無料ということはないようです。上田市では福祉バスの意味合いで無料のオレンジバス、ふれあいバスもあり、また、必ずしも路線バスと競合しない地域のための運行ではない状況です。そのために、「運賃低減バス」の良さがわかりづらいといった面もあると考えられます。上田市のコミュニティバスのあり方の見直しも必要と考えられます。

- 200円レールの取組みは、上田市では別所線で活かすことができるのか、研究をしていく必要があると感じました。
- EVタクシーは、実際に利用させていただきましたが、台数が少なく配車が難しい状況のようでした。
- ささえ合い交通は、中山間地の移動手段の確保のための、全国でも先進的な取り組みとして注目されています。しかし、京丹後市の取り組みをそのまま導入するのは難しいとも考えられます。「支え合い交通は、毎日の出庫確認をNPO法人が中心に行うなど、他地域がなかなかまねのできない体制をとっている。取り組みが広がるには、もう少し運営体制を柔軟にできるような仕組みづくりが必要」と京都産業大学教授が指摘されています。「自分たちの地域をどのようにしていくか。」という視点での、マンパワーと仕組みづくりが重要ということを再認識しました。

平成29年度 会派調査研究報告書

(視察先1箇所につき1枚)

会 派 名	日本共産党
事 業 名	先進地視察 「エネルギーの地産地消について」
事 業 区 分	①研究研修 ②調 査

1 上田市での課題と研修・調査の目的

再生可能エネルギーの積極的な普及は、温暖化抑制のためにも喫緊の課題であり、一層の推進が求められています。民間任せだけでなく、自治体自らが本格的に再生可能エネルギーに乗り出している自治体が増えています。みやま市では、その先進地であり上田市における今後の再生可能エネルギーの普及の参考にします。

2 実施概要

実施日時	視察先	福岡県 みやま市
平成29年8月23日 9:00~10:30	担当部局	環境経済部 エネルギー政策室 みやまスマートエネルギー株式会社

報
告
内
容

1 市の概要及び特徴

- 人口 38,296人 面積 105.12km²
- 合併に際し、三池郡の「三」と山門郡の「山」の名称にちなみ、また3町にある清水山、御牧山、愛宕山の3つの山、美しい山、海と山に囲まれた豊かな市をイメージして、ひらがなの「みやま」とした。
- 特産物 みかん、すももなど果物が豊富である。
- 観光 女山史跡森林公園、長田鉱泉場、清水寺本坊庭園など

2 視察事項について

(1) 研修項目（質問項目）

- 再生可能エネルギー政策について
 - ア エネルギーの地産地消をすすめた背景と目的は
 - イ 再生可能エネルギー普及のための助成制度は
 - ウ 再生可能エネルギーの種類別の普及状況と目標は
 - エ 太陽光発電所の場合、事業者による大規模発電（メガソーラー）について、近接住民とのトラブルがあるか。対策はどうか。
 - オ 市有地および市有建物等での再生可能エネルギー普及状況と目標は
 - カ 市役所としての、省エネ・節電対策はどうか。
 - キ 今後の課題はどうか。



(みやま市役所前)

- 「みやまスマートエネルギー株式会社」について
 - ア 設立の経過と市役所とのかかわり
 - イ 会社概要(資本金、役員体制など)
 - ウ 決算状況など経営状況は。
 - エ 電力の地産地消を進めるうえで、他の自治体との連携はどうか。
 - オ 今後の課題はどうか。



(スマートエネルギー株式会社前)

- 経済産業省の「大規模 HEMS 情報基盤整備事業」について
 - ア 「大規模 HEMS 情報基盤整備事業」の概要
 - イ みやま市にとってのメリット
 - ウ 今後の課題はどうか。

(2) 説明を受けた主な内容

- ① この事業を始めたきっかけは、市長が「みやま市に新しいビジネスを生み雇用が生まれ、経済を活性化させる」ことであった。
- ② 平成28年の電力自由化にむけて、エネルギーによる新しいまちづくりを取り組むことを平成26年3月に議会(全員協議会)で説明して、電力会社設立の準備を始めた。となっている。
- ③ 国の関係7府省が共同で募集するバイオマス産業都市として認定され、佐賀県佐賀市、大分県佐伯市とともに、九州で初の選定を受けた。
- ④ みやまスマートエネルギー株式会社は資本金2,000万円。うち、みやま市が55%を出資している。ほかに、地元銀行(5%)、九州スマートコミュニティ(40%)となっている。

3 まとめ(上田市で参考になる点、活かせる点)

- エネルギーの地産地消をすすめるという理念は、大変参考になりました。また、自治体ならではの取り組みとして、一般家庭から電力を買い取り、また売電もするといった仕組みを作ったこと。
- そのうえ、行政では実施できないサービスを電力の販売とセットで、生活総合支援サービスも検討しているとのことです。今後の取り組みも参考にしたいと思いました。

* 視察先の写真等がある場合は添付のこと